

行事予定表		
1	月	体操
2	火	
3	水	交通安全教室 (1000)
4	木	
5	金	七夕クラス写真撮影/給食費引き落とし日 (3歳児以上)
6	土	
7	日	
8	月	七夕 (笹焼き)
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	海の日
16	火	巡回相談
17	水	お弁当とうデー/リトミック
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	体操
23	火	
24	水	
25	木	誕生会
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	体操
30	火	避難訓練
31	水	



六月末にやっと遅い梅雨を迎えた。あじさいには。雨が似合うが、梅雨の前に色をなくし始めた。しとしとと降り続き、大地がしつかりと水を貯えて夏を迎えなければ水の恵を受けられない。

子ども達は、そんなことお構えなしに水遊びに興じている。焼けつく大地に、裸足で重いバケツを両手にして水道と砂場を往復。大きな山とダム作り。どろ団子作りも盛んだ。

夏休みはすぐそこ。夏の太陽と入道雲が出番を待っている。今年も猛暑になりそう。

「ふたばっこお楽しみ会」

- ・今年、6月末の週を「ぞうグループのお楽しみウィーク」としました。火を使わないキャンドル作り・スイカ割り・買い物等を日替わりで行い、金曜日には朝からゲームや夕飯作り等を行い、20時まで園で過ごします。友達と力を合わせ、楽しい思い出の一つになってくれますように。

今月の予定の中から...

- 交通安全教室 (4日)
- ・今月は4歳児も参加し、信号の見方・渡り方を、パネルシアターを見て学びます。
- 七夕クラス集合写真撮影 (5日)
- ・5日は、みんなの作った笹飾りの前で、クラスごとに集合写真を撮ります。写真は、スマートビューで後日配信します。
- ※9時までの登園をお願いします。
- 笹焼き (8日)
- ・7日がお休みの為8日に笹焼きをしますが、7日の夜は是非お子さんと夜空を見上げてみてください。晴れるといいですね!
- 巡回相談 (16日)
- ・子ども達の様子を見て頂き、ご助言を頂きます。また、保護者の方の育児の悩み等も相談できますのでどうぞお声かけ下さい。



●お弁当とうデー (17日)

- ・お弁当を子ども達は、毎月楽しみにしています。お弁当の食材は必ず冷ましてから蓋を閉め、保冷剤を入れてください。
- 誕生会 (25日)
- ・皆でお祝いする気持ちが、少しずつ育ってきているようで、とても嬉しく思います。

☆お知らせ

- ・8/2 (金)に「ふたばっこサマー」を実施予定です。前日に午睡時間14:00〜前日準備を行い、当日は午前中園全体で水遊びを楽しみます。
- ※保護者の方で参加希望の方は担任までお知らせください!
- ・「秋祭り」に向けて保育時間に、「ふたばっこまつり」を行います。

8/28 (水)・・・1部にじぐみ、ひかりぐみ
2部ほしぐみ、だいちぐみ

8/29 (木)・・・たいようぐみ、そらぐみ

※保護者の方で参加希望の方は担任までお知らせください! (なお、お子さんのクラス以外のクラスでのお手伝いをお願いします。)

「ザリガニつり」

失敗から学ぶことの大切さ

六月の初めに、ザリガニつりに出掛けました。前日までに準備をします。まず、園の周囲にさおになるようなものを見つけないに行きます。そして、さおに紐を結び、紐の先にサキイカをつけます。細いタコ糸です。紐を結んだことのない子は悪戦苦闘します。簡単に結んでしまう子もいますが、手先の器用さが問われます。手先を使うことは脳の発達に関わりません。イカもしっかりと結びつけないと、すぐにはずれてしまいます。意気揚々と田ん浦に向かうと我先へと釣場に走り出します。勢い込んでいるので、ザリガニが食いつくとすぐに上げてしまうので、なかなか引つかからず、釣れ



ません。そのうち、じつくりとよく噛ませ、挟ませ、待つようになります。忍耐力が育ちます。待てない子は釣れません。焦ります。焦るから、水の中に入れてはすぐに出すを繰り返して、釣れません。釣れる子から「待っていないからだよ」と指摘され、悔しい思いをします。ザリガニの習性が分かったり、隠れていそうなところを予測したり考えるようになります。想像力、予測力も育ちます。短い木の棒では、ザリガニのところまで届きません。紐の長さは、短すぎても長すぎてもダメです。短いと届きません。長すぎてもコントロールが難しく稲苗に引つかかってしまいます。そうこうするうちに、お昼になって帰らなければなりません。釣れなかった子は「一匹も釣れなかった」とガツカリして、肩を落としています。それでも「今日釣れなくても、どうしたら釣れるか、よく考えて、もう一度釣りにこよう。次は必ず釣ろう」と言うのと、顔を上げ、「もう一度来たい」と声を上げました。▼最近は何から何まで、お母さんが上げてあげてしまっていて、自分でやることとしない子、何もできない子がいます。子どもがやることに手出ししては、子どもは発達しなくなってしまう。まずは、自分でやることです。そして失敗することです。成功から学ぶことは難しいと思います。成功体験が足をひっぱることがあります。失敗は、なぜ失敗したか原因を考えます。そしてどうしたら上手くいくか、考えます▼。たかがザリガニ釣りだが、失敗したことを大切にしないで、同じ短い棒を持たせたり、紐の結び方を学ばせないで、もう一度ザリガニ釣りに行っても、無駄なことです。子ども達には何も残りません。せっかくの失敗を無意味にしてしまってもったいないと思います。体験と失敗を大切に、成功の喜びに共感することが重要です。

理事長 浅田精利

